

本報告書は2025年11月27日付で技術諮問委員会より提出された報告書に対して、NRRC所長より出した返信レターを参考までに原子力リスク研究センターにて仮訳したものです。  
正式な報告書は、英文版の原文のみとなりますのでご注意ください。

原子力リスク研究センター  
一般財団法人 電力中央研究所  
〒100-8126 東京都千代田区大手町 1-6-1

ジョージ・アポストラキス博士  
原子力リスク研究センター所長

2025年12月19日

ジョン・W・ステットカー氏  
技術諮問委員会 委員長

件名：日本の産業界におけるフルスコープ、オールハザード、オールモードの  
レベル2 確率論的リスク評価の開発

ステットカー委員長

我々が検討を開始した、日本の原子力発電所を対象としたオールハザード・オールモードを網羅したレベル2 確率論的リスク評価（PRA）を策定する取り組みに対し、TACから強い支持をいただいたことについて感謝申し上げます。

NRRCはTACの提言について、以下の通り回答する。

## 1. 日本固有のフルスコープレベル2 PRAの開発

我々は、日本固有のフルスコープレベル2 PRAの開発に関するTACの提言に同意する。我々は、日本の電力会社と緊密に連携し、全ての運転モードと関連するハザードを網羅する包括的なレベル2 PRAの開発を支援する。この取り組みにより、日本の原子力発電所の一貫したリスク評価を可能とする技術基盤を構築する。また、この取り組みが日本におけるリスク情報を活用したアプローチの導入を推進し、結果的に原子力発電所の安全性と運転効率の向上が達成されることを目指す。

## 2. 産業界の手法を一貫した PRA フレームワークへ統合

我々は、一貫した PRA フレームワークの構築に関する TAC の提言に同意する。これから開始する全ての運転モードと関連するハザードを網羅する包括的なレベル 2 PRA の開発においては、業界の最新の手法やアプローチ、分析ツールを一貫性のある形で PRA フレームワークに統合するよう支援する。

敬具



ジョージ・アポストラキス